▼猿田ヶ谷横穴群Ａ群第１号墳の開口状況

▲Ａ群第２号墳の現状

▲Ｂ群第１号墳の現状

埋蔵文化財包蔵地

猿田ヶ谷横穴群

History

キラリを再発見

門屋地区最南端の横穴群

猿田ヶ谷横穴群は、静岡カントリー浜岡コースがある高松山の北側にある丘陵の尾根近くに立地しています。

昭和48年(1973)１月に作成された「静岡県埋蔵文化財包蔵地調査カード」にすでに記入されていることから、かなり早い時期からその存在が判明していたと考えられます。

猿田ヶ谷横穴群は、Ａ群２基とＢ群２基が100㍍ほど離れて位置しています。Ａ群２号墳は入り口がわずかに開いていますが、内部に入れないため、内部の様子は不明です。しかし、Ａ群１号墳は開口しており、平面形はフラスコ形で断面はドーム状になっています。棺を安置した玄室の幅は２･４㍍で、天井の高さは１･25㍍です。Ｂ群は２基とも埋没しているため内部の様子は不明です。Ａ群、Ｂ群共に発掘調査をしていないため副葬品などについては不明です。

照　会　社会教育課　☎0548(63)1129

Atomic

暮らしと原子力

データ拡充のため 発電所敷地内外で地質調査

中部電力は７月26日、地質データ拡充のため、浜岡原子力発電所の敷地内外で地質調査を実施すると公表しました。

発電所敷地内には「Ｈ断層系」と呼ばれる地層のずれがあることがすでに確認されています。中部電力はこれまで発電所の敷地や周辺の地質を詳しく調べた結果、Ｈ断層系は地震やずれを起こすものではないと評価し、国の安全審査でも確認されています。原子力安全・保安院（当時）が設置した地震・津波に関する意見聴取会でも昨年８月、Ｈ断層系は耐震設計上考慮する必要はないと結論付けられています。ただ、この意見聴取会の中でＨ断層系に係るデータをさらに拡充したらどうかと意見があったことから、中部電力はデータの追加収集を目的とした地質調査を自主的に実施することとしたものです。

今回の調査は、敷地内北側や敷地の外で地表地質調査やボーリング調査、トレンチ調査などを来年３月末日まで実施する予定です。